



## 5. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 名古屋表彰 最優秀賞ポスター賞受賞者コメント

家れい奈（共同演者：奥原剛、岡田宏子、後藤英子、木内貴弘）  
東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野

演題名：健康食品の“免罪符型”動画広告が視聴者に与える影響の評価：ランダム化比較研究

### 1. 受賞ポスターの内容

■健康食品を不健康な行動をとるための免罪符として描く、免罪符型の動画広告が視聴者の認識に与える影響を、公衆衛生の観点から世界で初めて評価した。

■免罪符型の広告が、視聴者の「健康食品を摂取すれば、不健康な行動をしてもよい、健康行動をしなくてよい」という誤った認識を高めていることを明らかにした。

■免罪符型広告の内容改善の重要性が示唆された。

### 2. 御礼

この度は、最優秀ポスター賞という身に余る賞をいただきありがとうございます。

本演題「健康食品の“免罪符型”動画広告が視聴者に与える影響の評価：ランダム化比較研究」は、査読付き国際誌 *healthcare* にも掲載されており、東京大学大学院公共健康医学専攻の課題研究論文としても提出させていただきました。査読いただきました先生方からのコメント、医療コミュニケーション学教室の先生方のご指導、大学院生の皆様からのご助言、ディスカッションがなければ受賞はあり得ませんでした。この場をお借りして心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

### 3. 学生時代

高校時代、私は食事が人を幸せにする力に心惹かれ管理栄養士を志しました。「これさえ食べていけば病気になる」、「これさえ食べていけば病気が治る」。このような食事や食材は教科書に載っていないことを学びました。大切なのは、“バランスの良い”食事と適度な運動だというシンプルな学びを持って公衆衛生大学院に入学しました。そこで出会ったのが本テーマです。初めての人を対象にした研究、初めての英語論文執筆で課題が山積みでしたが、医療コミュニケーション学教室の皆さま、東大 S P H の同期の皆さまの温かいお言葉を励みに形にすることができました。教室の先生方、大学院生の皆さまに少しでも恩返ししたいというのが私の論文執筆、ポスター発表の何よりのモチベーションでした。

### 4. 現在とこれから

私は、現在は民間企業に就職し栄養とヘルスコミュニケーションに関する業務に取り組んでおります。今回の受賞を励みに、今後もより一層精進して参ります。この度は、誠にありがとうございます。

受賞ポスター関連論文

Iye R, Okuhara T, Okada H, Goto E, Furukawa E, Kiuchi T. The Effect of Exposure to “Exemption” Video Advertisements for Functional Foods: A Randomized Control Study in Japan. *Healthcare*